

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 1 区分
 【発行日】平成 27 年 9 月 24 日 (2015.9.24)

【公開番号】特開 2014-216260 (P2014-216260A)
 【公開日】平成 26 年 11 月 17 日 (2014.11.17)
 【年通号数】公開・登録公報 2014-063
 【出願番号】特願 2013-94494 (P2013-94494)
 【国際特許分類】

H 0 1 R 13/52 (2006.01)

【 F I 】

H 0 1 R 13/52 3 0 1 B

H 0 1 R 13/52 3 0 1 H

【手続補正書】
 【提出日】平成 27 年 8 月 7 日 (2015.8.7)
 【手続補正 1】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 2 5
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 2 5 】

同じく、両ハウジング 1 0 , 2 0 を嵌合した状態では、フード部 2 2 の先端面 2 2 S が耳状張出部 3 6 の受圧部 3 8 A , 3 8 B を前方から弾性的に押圧し、その押圧力は、嵌合空間 1 6 の奥端面 1 6 S (収容凹部 5 0 の奥底面) で受け止められる。フード部 2 2 の先端面 2 2 S と嵌合空間 1 6 の奥端面 1 6 S との前後方向の間隔は、耳状張出部 3 6 が弾性変形していない状態の前後方向の厚さ寸法よりも小さいので、耳状張出部 3 6 は弾性的に潰される。

【手続補正 2】
 【補正対象書類名】明細書
 【補正対象項目名】0 0 3 3
 【補正方法】変更
 【補正の内容】
 【 0 0 3 3 】

また、本実施例 1 のコネクタは、嵌合空間 1 6 の奥端面 1 6 S を凹ませた形態であって、耳状張出部 3 6 の突部 4 0 A , 4 0 B を収容して当接させる収容凹部 5 0 を形成している。この構成によれば、第 1 突部 4 0 A の周方向両端面のうち切欠部 4 1 とは反対側の端面が、収容凹部 5 0 の内面に対して周方向 (左方向または右方向) に当接するとともに、第 2 突部 4 0 B の内周面と外周面が収容凹部 5 0 の内面に当接することにより、耳状張出部 3 6 が第 1 ハウジング 1 0 に対して左右方向に位置決めされる。